

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

【別紙2】

教科：(外国語)科目：(コミュニケーション英語Ⅱ) 対象：(第3学年A組～F組)

教科・科目の指導目標	学力スタンダードに基づいて、基礎的・基本的な文法事項の確実な習得を図るとともに、英語を理解する力と表現する力を伸ばし、他者の話す簡単な英語を聞き取り、簡単な英語で自分の身の回りのことを言えるようにする。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 リスニングテストでは、選択問題の正答率はある程度高かったが、記述式の問題では正解率が低かった。</p> <p>2 自由英作文の問題では、文法的なミス、スペリングミス、動詞の活用間違い、冠詞の抜けなど、基本的なミスが多く、文の体裁をなしていないもの、あるいは無回答のものも少なくなかった。</p> <p>3 長文問題はおしなべて正答率が低い。特に会話文よりも物語文のほうが正答率が低かった。</p>	<p>1 年間指導計画の活用 高校二年生までの既習事項と学習目標を明確にし、担当者間で共有するとともに、共通教材を適宜利用し、定着を図る。また、JET、ALTとの授業を活用し、英語を聞き取る力と表現する力を身に付けさせる。</p> <p>2 習熟度別授業の実施 担当者間の連絡調整を密に行ない、学期末考査ごとに共通問題の成績に基づいて、クラス替えを行う。生徒自身に考えさせる場面を多く設け、自分自身で表現の精度を上げる力を身に付けさせる。</p> <p>3 副教材を活用して読解を軸とした英語によるコミュニケーション能力の確実な定着を図る。また、普段の授業から学んだ内容を応用できる力を身に付けさせる。</p>	<p>1 課題の実施 教科書と並行し、副教材を用いた課題を用意し、自学自習の習慣を育成する。また、定期考査にも出題し、総合的な英語力の向上を図る。</p> <p>2 夏休み等の補習の実施 成績不振の生徒には補習を行い、基礎を定着させ、成績上位の生徒には発展的な内容の講習を行ない、全商英検合格等を目指す。</p> <p>3 JET、ALTとの協力体制の確立 簡単かつ使用頻度の高い表現を何度も使用させることで、身近な表現として定着させる。また、スピーキング課題を課し、相互に刺激し合えるような環境を設定する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			